

平田仁子と読み解く、 パリ協定後の気候変動対策



第39回

やはり原子力発電が必要なのだろうか

(一社) Climate Integrate 代表理事 平田 仁子

今年に入って電力のひっ迫が度々伝えられ、政府から節電のお願いが繰り返されています。岸田首相は、今冬のひっ迫に備え、最大9基の原発の稼働を進め、火力発電の供給能力を追加で10基分確保するよう指示をしました。福島第一原発事故以降、原子力依存度を下げる方針をとってきましたが、これからまた、原子力発電の利用に舵を切っていくのでしょうか。

原子力発電所の再稼働の現状

福島第一原発事故が起こった時、原子力発電所は54基ありました。事故から10年以上が経過し、今日までに、事故にあったものを含め24基の廃炉が決まり、原子力規制委員会の新規基準の審査を通った10基の再稼働が許可されています。ただ定期検査やトラブル、テロ対策施設の整備などで停止している原子炉もあるため、岸田首相が「9基の稼働」と言ったのは、10基のうち9基が2023年1月にまでに稼働見込みであることを踏まえたものです。首相が再稼働を指示すること自体に政権の意図を感じますが、原子力規制委員会は安全性を疎かにすることなく審査するという立場ですから、首相発言によってさらに再稼働が前倒しで進むというものでもなさそうです。

原子力発電にどこまで期待できるのか

9基の原子炉がこの冬に稼働すれば、電力ひっ迫への対応にはなります。ただ9基が稼働

するのは1月から2月の1カ月程度、その後2基が定期検査に入るため、頼れる供給力は限られそうです。

もう少し長い目で見た場合、今後、原発はどれだけの役割を果たせるのでしょうか。資源エネルギー庁がまとめている資料では、原子力発電所はすでに老朽化しているため、40年廃炉の場合には2030年前後から急速に減少します(図)。60年廃炉の最大シナリオでも2040年以降大幅に減少します。さらに原発訴訟で運転差し止めの判決が出ていますし、10年以上停止しているため故障やトラブルなども予想されますので、このうちどれだけが稼働できるのか、見通しも立ちません。

つまり、既存の原子力発電が貢献できる役割はどんどん小さくなっていくばかりです。また新規に建設しようとしても時間もコストもかかりますし、危険性もゼロではなく、日本では現実味がありません。2030年の電源構成の20~22%を原発でまかなうとする政府計画が現実に照らして過大であることは多くの人が認めるところです。

原発の裏で、結局は火力発電に依存

一方、岸田首相の発言にあった「火力電源の10基分確保」については、どの発電所を指すのかははっきりしませんが、近年休止した古い発電所を再び動かすことを念頭にしているようです。当面、石炭やガスなどの老朽火力発電に頼るといっただけでなく、さらに、今後の電力ひっ迫への対応として新たな火力電源の

建設が必要だという考えも示しています。さすがに石炭火力は対象外とするようですが、LNG火力であっても新規建設は気候変動の観点からは大きな問題です。

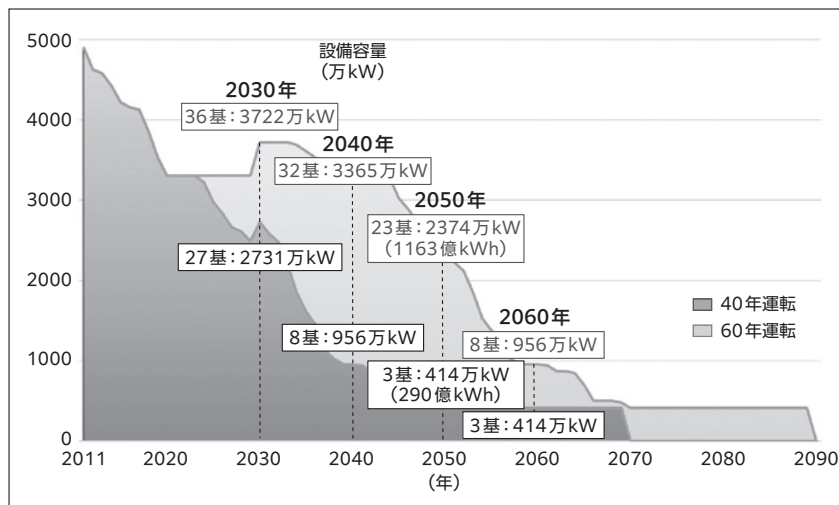
国際エネルギー機関(IEA)は、カーボンニュートラル実現のためのG7諸国の

電力部門の脱炭素化のシナリオにおいて、2035年のガス火力割合は2%にまで減少させる必要があるというマイルストーンを描いています。今から新規建設をするという方針は、これに完全に逆行します。

それにしても結局、原発と火力なのでしょう。世界の趨勢を見ると、ものすごい勢いで再生可能エネルギーの導入の加速が進んでいます。脱ロシア依存のために洋上風力の導入目標を前倒ししたり、太陽光発電の設置を義務化したり、大規模な投資を行ったり。一方の日本では、電力供給力・供給量を高めていく検討の中で、再エネの導入目標の引き上げや計画の前倒し、加速といった議論はほとんどなされていません。また、建物の断熱強化や工場の効率規制などの大規模な省エネを進めるための仕組みの強化も進みません。大いに気がかりです。

今でも火力や原発に頼るしかない現状をつくり出しているのは、エネルギー転換を進める対応を十分に取ってこなかったことのツケなのではないでしょうか。また、今この危機に直面してもなお、省エネと再エネへの転換に力を入れないなら、今後もやはり火力や原発から抜け出せないのではないのでしょうか。国内の議論を見ると、相変わらず再エネの変動性などの弱点が強調され続けていますが、電

●原子力発電所の設備容量の見通し



出典:資源エネルギー庁

力システムの柔軟性を高める試みは世界共通で進められています。できない理由ばかり言い続けていると、ますます日本の転換を停滞させてしまうように思えてなりません。

原爆投下と原発事故を経験した日本で考える

今年は広島・長崎に原爆が投下されて77年でした。今この時も、緊張が高まる世界情勢に対して核兵器が必要だという主張があり、恐ろしく感じます。また、福島第一原発事故からは11年が経過しました。福島原発の廃炉には長い時間を要し、土地や家、仕事などを失った方々の苦悩は今も続いています。核のゴミの問題も未解決です。日本が「核の戦争利用」と「核の平和利用」の両方で甚大な被害を受けた世界で唯一の国であることは忘れてはならないことだと思います。

最近、「原発再稼働が必要」「小型原子炉の開発を進めるべき」といった議論が一部で沸き起こっています。気候変動とエネルギー危機に直面する今、私たちはどのようなエネルギーを選択すべきなのでしょう。原子力=核の利用を考えると、日本の私たちが将来を俯瞰した丁寧で慎重な選択をすることが改めて重要になっている気がします。📌